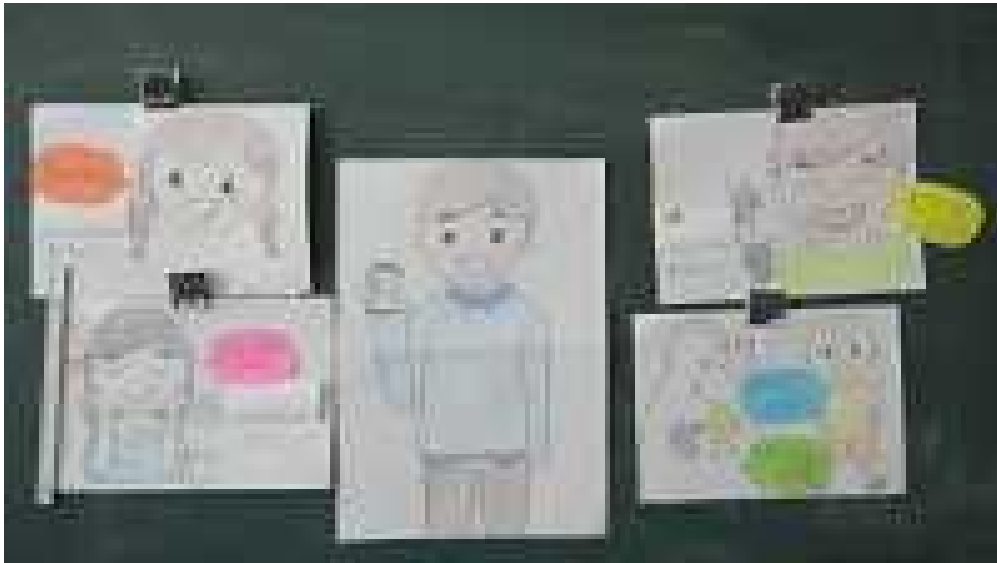


教材名（活動名） お茶ってすごいよ！	学 校 名	静岡県立沼津聴覚特別支援学校
	学年・人数	小学部4年 2人
	教 科 等	わくわく（総合的な学習の時間）
実施時期 平成27年5月25日（月）	授業場所	小学部4年教室
	連携機関	なし
ねらい お茶は、私たちの身体にとって、とてもよいことを知る。		
学習（活動）内容		
<p>1 今日の給食のメニューを振り返る。</p> <p>(1) 給食のメニューをたずねる。 <ul style="list-style-type: none"> ・茶飯・あじの南部揚げ・ソラマメの塩茹で・・・ →白飯ではなかったことに気付かせる。 </p> <p>(2) 茶飯について感想を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・おいしかった・緑の粉みたいなのが入っていた。 →緑色の粉は、お茶であることを確認する。 </p> <p>2 お茶について知る。</p> <p>(1) お茶ができるまでの写真を提示する。 →茶葉から市販のお茶っ葉になるまでを、写真を見せながら説明する。</p> <p>(2) 緑茶以外のお茶(紅茶、中国茶)を紹介する。</p> <p>(3) お茶(緑茶)を飲む。 <ul style="list-style-type: none"> ・おいしい・苦い →この「苦さ」の中に身体によいものが含まれることを伝える。 </p> <p>3 まとめ</p> <p>お茶が身体によいことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目が覚める ・リラックスできる ・虫歯予防になる ・かぜ予防になる ・殺菌効果がある →教材を提示しながらお茶の効果(身体によいこと)を確認する		

• 使用教材



成果

- お茶を飲むことによって目が覚める、虫歯になりにくくなるなど、児童たちにとって身体によいことがたくさんあることを知り、児童から「家に帰ってからもお茶を飲まないかね。」という声が聞かれた。
- お茶には緑茶だけでなく、様々な種類のものがあるということにも関心をもつことができた。

留意点

- お茶の効果についての話に重点を置く。
- 語彙に課題がある子どもたちなので「予防」「リラックス」などの言葉は確認しながら進めていく。また、カフェイン、カテキンなどの言葉は日常的によく聞く言葉なので、意図的に使う。

教材名（活動名） きせつの言葉1「夏近し」	学 校 名	静岡視覚特別支援学校
	学年・人数	小学部4年 1人
	教 科 等	国語
実施時期 平成27年5月上旬	授 業 場 所	小学部学習棟 教室
	連 携 機 関	なし
ねらい ・初夏の風景に興味を持ち、それに関わる語句を増やすことができる。		
学習（活動）内容 *季節の言葉1「夏近し」の中から、「茶つみ」の部分を取り上げ、お茶に関することについてふれたり、体験したりする機会を持つ。 *教科書に書かれている「茶つみ」についての説明し、関連ワードを知る。 1 茶摘み（茶畑） 実際に茶の木の枝についているお茶の葉を触る。（教室内） 校内にある茶の木を触り、実際に葉を自分で摘む。（校庭） 2 茶所について お茶が特産の都道府県の確認をする。→静岡、京都 3 新茶・抹茶の飲み比べ 静岡の新茶、京都の抹茶を入れて飲み比べを行う。 4 お茶に関する俳句 「折々は 腰たたきつつ つむ茶かな」 小林一茶 俳句でうたっていることを、実際に動作化して意味を考える。 <授業内での児童の感想> ・新茶は棒みたいだけど、抹茶は粉みたいで違う。 ・お茶は苦いね。 ・ずっと摘んでいたら、腰が痛くなってしまおうね。など		
成果 ・自分の住んでいる県が茶所であることを知り、実際に茶の木などに触れ、茶摘みを体験したり、実際に自分で煎れて飲んだりしたことで、お茶に関しての理解が深まった。 ・実際に体験したことを通して、教科書に書かれている「茶つみ」に関する語句に対する興味が高まり、理解が深まっていった。		
留意点 ・お茶の時期に、総合的な学習の時間など他教科とも連携し、茶もみ体験などを行うことで、より深い理解や興味・関心を引き出すことができると考えられる。 ・実際に茶の木に触れたり、もむ前のお茶の葉に触れたりする。また、自分でお茶を淹れる体験をしたり、飲んだりする。（実際に本物に触れる・体験する）		

教材名（活動名） おいしいお茶を飲もう！	学校名	吉田特別支援学校駿遠分教室
	学年・人数	小学部 8人
	教科等	生活単元学習
実施時期 平成27年4月下旬～5月中旬	授業場所	小学部教室、学校周辺茶畑
	連携機関	（地域の方）

ねらい

- ・講師と一緒にお茶を淹れたり、地域の人と茶話会を行い、一緒におやつを作ったりすることができる。
- ・分かったことや楽しかったことをみんなの前で発表することができる。
- ・お茶の種類やお茶の淹れ方などに興味を持つことができる。

学習（活動）内容

1 単元計画

- (1) 利き茶大会をしよう（麦茶、ウーロン茶、緑茶）
- (2) 抹茶体験（講師2人 学校職員）→分かったことのまとめと発表、お礼の手紙とプレゼント作り
- (3) 地域の方にインタビューに行こう（おいしいお茶の作り方、お茶の流通について、お茶を使ったお菓子など）
- (4) 地域の方の茶畑でお茶摘み体験→お茶を炒る→お茶を飲む（2回）
- (5) 地域の方を招待して交流会をしよう（計画、準備、プレゼント作り→お礼の手紙）
- (6) 「お茶交流」お茶の学習で分かったことの発表。一緒におはぎを作ったり、お茶を飲んだりする。プレゼントを渡す。



2 活動の様子

- (1) 色々なお茶を飲んだり、座布団に座り、目の前で抹茶をたてて頂いたりする体験では真剣な表情で取り組む姿が見られた。
- (2) お茶についての質問を自分で考えてインタビューしたり、意欲的に新茶を摘んだりすることができた。
- (3) お茶交流では、事前に当日と同じように練習することで、自信をもって発表できた。
- (4) 地域の方の名前を覚え、挨拶したりうれしそうに接したりする様子が見られた。



3 地域の方の感想

- (1) 子ども達と交流する機会は少ないので、とてもうれしかった。一緒におはぎ作りができて、楽しかった。
- (2) 7月に実施予定の地域の方との交流会に招待したところ、喜んで来て下さるとの返事を頂いた。

成果

- ・利き茶、抹茶、お茶摘み、お茶菓子作り（おはぎ）など体験型の活動を多く取り入れることで、お茶への興味関心を高めることができた。
- ・顔見知りの職員や地域の方とふれあいながら学習することで、積極的に活動に取り組んだり、地域の方やお茶をより身近に感じたりすることができるようになった。

留意点

- ・周囲を茶畑に囲まれている本校は毎年お茶に関する学習を行ってきた。お茶について知る活動、お茶を活用する活動を通して、お茶摘みをさせて頂いた地域の方を招いて茶話会をしよう、お礼の手紙を書こう、といった地域の人とのつながりを深めることもねらっている。
- ・お茶を使った食べ物作りではお茶だんご、お茶をまぶしたおはぎ、抹茶ぷりん、抹茶アイスなど、製品作りでは、入浴剤（お茶袋）、石鹸などの実践がある。